

青森県立八戸北高等学校

「青森県の関係人口の増大に向けて
～RINGo! 大作戦～」



第1回高校生模擬議会参加 青森県立八戸北高等学校 平成29年2月9日(木)

青森県の関係人口増大に向けて ～RINGo!大作戦～

青森県立八戸北高等学校2年



私たちのテーマは、青森県の関係人口増大に向けて「RINGo!大作戦」です。(1)

まず、このテーマを考える切っ掛けとなったことについて話したいと思います。青森県を良くする政策というのを考えるに当たって、私たちは青森県のことを知らなすぎるという壁に当たりました。青森県への関心が薄かったり、知ろうとはしているのですが、そこへ行くための交通手段がなかったりと、学べる環境にないということが分かりました。

そして、良い点として出てくるのは祭りやりんご等という産物、固有名詞ばかりで、良い点よりも問題点や日常生活などにおける不便な点の方が多く、青森県民として自分達が情けなくなりました。

そこで、私たちはこの状況をなんとか改善して、青森県についてもっと学びたいという思いから、持続可能な青森県の人材応援態勢について考えたいと思いました。(3)

こちらは青森県の就学就職に伴う首都圏等への転出のグラフです。見てのとおり、18歳、20歳、22歳の転出がとて多くなっています。このように大学進学のために県外に出て行く人が多いと考えられます。私たちも大学進学へ向けて学習しており、これから志望先の大学は県外となり転出していくと思います。(4)

そのとき青森県外の人から青森県の魅力は何ですか？青森県とはどういうところですか？と聞かれても、今のままだと青森県のことをよく知らないため、青森県の魅力をしっかり発信できないと思います。それは17年間青森県に住んできた人としてとても恥ずかしいことだし、もっと学ばなければいけないと心から感じました。

目次

- 1. きっかけ
- 2. 県外流出状況
- 3. 提案内容
- 4. 関係人口の増加
- 5. 実体験の意義
- 6. 実体験後の変化



- 7. 交通手段
- 8. 具体策RINGo!
- 9. 実用化試算
- 10. 高校生人材バンク
- 11. まとめ
参考文献

1. きっかけ・本校生徒の現状

青森県の活性化について考えよう

青森県について悲観的

→自分たちは青森を知らない、見ようとしていない。

→私達自身の課題に直面

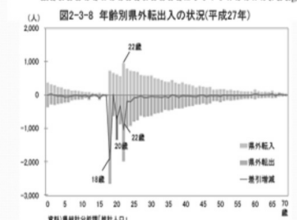
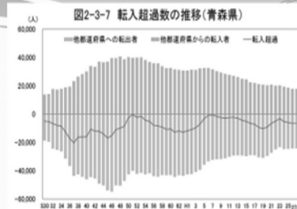
青森について実体験を伴う学びを

2. 就学・就職に伴う 首都圏等への転出

青森県の社会動向は常にマイナスの値となっており、県外へ転出する人が多い状況。

転出者数は、昭和46年(1971年)の5万4,711人をピークに減少する傾向にあるものの、長期にわたり県外への転出者数が転入者数を上回る転出超過の状況が続いている。

県外への転出入の状況を年齢別にみると、特に18歳、20歳、22歳の時点での転出超過が多くなっている。



3. 提案内容

青森県を活性化するため

高校生育成⇒関係人口増大⇒人材活用

就職や進学する前に、
高校生に青森県について実体験をする機会を与え、
関係人口増加につなげる。

政府が進めている

「まち・ひと・しごと創生政策」を後押し

提案内容です。「RINGo!」、これは後々説明しますが、ICカードで、県内を行き来しやすくするカードです。

これを「高校生人材バンク」と連携させ、青森の歴史や文化を学べる仕組みとします。高校生が他県に散らばり、このカードで学んだことを多くの人に知ってもらい、青森に興味を持ってもらいます。そして他県の人々が観光や青森県産品を買うなどの目的で青森に来るといふ、このような流れをたくさん作ることで、お金だけではなく関心もたくさん集められます。これは政府が進めている「まち・ひと・しごと創生政策」を後押しします。(5)

4. 関係人口を増やす

関係人口とは

その地に定住しないもの
その土地との関係をもつ人

都市と地方をかきまぜる
「食べる通信」の奇跡(光文社新書)
高橋 博之 氏

「関係人口」とはその地に定住しないものの、その土地との関係を持つ人のことをいいます。このテーマを研究するに当たって「都市と地方をかきまぜる」という本に出会い「関係人口」という言葉が出てきたので興味を持ちました。(6)

5. 実体験することの大切さ

- ・事前事後の学びができる。
- ・スマートフォンやPC→まとめられた内容による衝撃なし。

実体験→考える⇒より記憶に残る⇒動機づけ

実体験のほうが見学場所を
より強く印象付けられる

私たちはこの2年間で実体験することの大切さを学びました。どうして実体験することが大切なのかという、事前学習では学びきれなかったことを学習できるからです。実際にその土地を訪れ見たり聞いたりすることで、事の深刻さや重大さに気づき、ショックを受けたり、人の温かさに気付かされたりしました。こうした感情を伴って学んだことは深く心に残り、自信を持って皆さんにお伝えすることが出来ます。(7)

1学年総合的な学習の時間(ESD研究)見学場所



私たちは1年生と2年生の時の総合的な学習の時間を利用して、ESD研究や防災学習を行いました。そこでいくつか例に挙げて紹介したいと思います。(8、9、10)

9

1学年総合的な学習の時間(ESD研究)見学場所

八戸石灰鉱山(八戸キャニオン) 田子町産業廃棄物不法投棄現場 八戸セメント株式会社

岩手県野田村

10

2年総合的な学習の時間 見学場所

八戸市役所市民防災部 防災危機管理課 デーリー東北新聞社 浜市川保育園 海上自衛隊八戸航空基地

八戸警察署水上警備派出所 東北電力八戸航空基地 八戸市水産科学館マリエント 八戸海上保安部

岩手県宮古市田老地区 普代村

11

田子町産業廃棄物不法投棄現場

- 新聞記事で田子町産業廃棄物不法投棄について学ぶ、調べる、議論。
- 見学
- 植林体験
- 学んだこと

不法投棄防止と対策に向けて獅子奮迅の活躍をしている方がいる。
不法投棄の深刻さ。
森林の破壊は安易で一瞬であるが、再生するのにかなりの労力が年月が必要。

私は昨年田子町の産業廃棄物不法投棄現場に行ってきました。事前学習で廃棄物の写真も見ていましたが、実際に行ってみた結果、まさらなところで、業者の方々が植えてくれた苗木がたくさんあるばかりで、暑い中での作業となり、破壊された森林を作り直すのは非常に難しいことだと分かりました。そして、あるものを壊すのは簡単だけれども、元どおりに戻すには、70年も80年も多くの時間が掛かるということを知ってとても驚きました。(11)

私は2年生の総合的な学習の時間に岩手県宮古市田老地区と普代村を訪れました。6年前の東日本大震災の時にニュースで津波の映像や地震の映像がいっぱい流れて、それから授業などでも何度かVTRを見てきたのですが、そのときは親や友だちと「大変だね」「まだ復興が終わってないだね」と、少し他人事のように見ていたところがあったのですが、実際に訪れたときは、家が建っていたところに一切そういうものがなくて、土や石、コンクリートの破片などがいっぱい転がっている状態で、正直言葉が出なかったです。津波というのは人が生活していた証拠だけではなく、人の気配すらも流しきってしまうものなんだなと思い、胸が苦しくなりました。それを体験して、行ったら辛くなるけれど実際に足を運んで自分の目で見るのが大事なんじゃないかなと思いました。

12

6. 実体験後の変化

社会への関心

- ・新聞、関連書籍を読むようになった。
- ・ニュースを見るようになった。計62%
- ・報道で見ていた時は深く考えようとしなかったことも、その問題をもっと身近な、切実な問題として考えるようになった。
- ・はちのへ市議会だよりを読むようになった。(政治への意識)
- ・見学先で話を伺い、大人の本気がリアルに伝わってきた。
- ・ずっとその地域を見届けたいという思いが強くなった。

校外研修を養えて

●とてもよかった ●良かった ●ふつう ●あまり良くなかった

とてもよかった
よかったと答えた人
89.8%
196人
(人)

生徒に校外学習を行った後にアンケートをとったところ、この校外学習により「新聞やテレビのニュースなどを見るようになった」と答える人が62%いました。他に、「報道で見ていたときは深く考えようとしなかったことも、その問題をもっと深刻に考えるようになった」、「はちのへ市議会だよりを読むようになった」、「見学先で話を伺い、大人の震災復興に対する真剣さがリアルに伝わってきた」

生徒の感想

() = 人数

13

- ・エネルギー源の重要性。
- ・森林の大切さに気付いた。
- ・前より少し地球環境のための行動を行っている。(学校や家での節電)
- ・自然環境を大切にしたいと改めて思い、具体的な方法を考えることが多くなった。
- ・はちのへ市議会だよりを読むようになった。(政治への関心)
- ・新聞を読むようになった。(42)
- ・ニュースを見るようになった。(79)
- ・地域の記事が載っていたら新聞を読むようになった。(15)
- ・あまり気にかけていなかった社会問題について、ニュースを見たり、本を読んで調べるようになった。(5)

14

- ・震災のことをもっと学ぶ必要があると改めて感じた。(25)
- ・地域の問題に興味が増え、気に掛けるようになった。(16)
- ・県民のことを考え仕事やボランティアをしている人たちに出会え、大人の凄さを感じた。(5)
- ・震災について学び、日頃から地域の人たちとのつながりをどうつくるか考えなくてはと思った。(4)
- ・見学先で話を伺い、大人の本気がリアルに伝わってきた。
- ・訪問先を追跡し続けたいし、今もそれに関する報道を追っかけている。(変化や発展を見続けるつもり)(8)
- ・訪問先のこと話題になっていると、気になり、ニュースや新聞に目を向けるようになった。(5)

15

- ・直接見て話を聞くことで、現実問題として実感が湧いた。(7)
- ・報道で見ていた時は深く考えようとしなかったことも、もっと身近な、切実な問題として考えるようになった。(5)
- ・住んでいる町だけでなく、他の地域はどうなっているんだろうかと考えるようになった。(7)
- ・青森県で起こっていることが気になるようになった。(4)
- ・自分たちの地域にも誇れるものがあるんだと知った。(地元の企業が世界を支えている・・・セメント工場の凄さ)(5)
- ・青森県って意外といいなと思った。(3)
- ・仮設住宅で暮らしている人がまだまだたくさんいるのを見てきて、震災復興は自分たちに関係ないとは思えなくなった。(5)
- ・青森県にまだまだ知らないことや未知の場所がたくさんあり、知りたいと思った。(3)

16

- ・見学先についてインターネットで調べるようになった。(3)
- ・見学先に対する見方が変わった。(是非について両面から考えなくてはと思った)(4)
- ・車の外の景色を見るようになった。訪問先の方のお話を思い出し、気にしなかった地域の変化も気にするようになった。
- ・植林したことが自慢になった。(ずっとその地域を見届けたいという思いが強くなった)
- ・視野が広がった。
- ・地元のイベントに興味を持ったり、実際行ってみようになった。(町を何とか盛り上げようとする主催者の目的に共感するようになった)

などがありました。校外研修を受けた満足度は「とても良かった」、「良かった」と答えた人が 89.8%を示していました。

(12)

こちらは生徒から出てきた感想です。

(13、14、15、16)

また、私たちが本校の2学年を対象にアンケートをとったところ、青森についてもっと観光地を見てみたいという声が強いのを知りました。特に白神山地などが多く、でも行きたいという気持ちは強いのですが、交通手段は自家用車が半分以上を占めているなど、自分達では行けないという状況にあることを知りました。(17)

このようなことを踏まえて私たちが提案するのは「RINGo!」です。